



発行 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島  
 〒411-0857 静岡県三島市芝本町1-43  
 TEL 055(983)0136 FAX 055(973)0022  
 URL <http://www.gwmishima.jp/>  
 E-mail [info@gwmishima.jp](mailto:info@gwmishima.jp)

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。(グラウンドワークをGWと表記することがあります)

## 第16回日韓国際環境賞・ダブル受賞



東アジア地域の環境保全に貢献した個人・団体を表彰する、第16回日韓(韓日)国際環境賞(主催・毎日新聞社、朝鮮日報社、後援・外務省、環境省、在日大韓民国大使館、協賛・ロッテ)は、日本側がNPO法人グラウンドワーク三島(緒明實理事長)、韓国側が韓国ナショナルトラスト(楊秉彝(ヤン・ピョンイ)理事長)に決まった。両団体は絶滅危惧種バイカモ(水生植物)群生地の保全などに努め、パートナーとしても交流を深めてきた。活動を支えた多くのボランティアの、日々の努力が報われたということで、大いに嬉しい。

地域の水辺環境を改善し、韓国の環境団体とも連携して成果を出していることが高い評価を受けた。韓国ナショナルトラストでは、地域住民と共にバイカモ群生地周辺に、無農薬農法を導入し成果を出した。さらに、日韓青少年交流事業等を活発に展開している点が認められた。

10月28日、ソウル市での合同表彰式では、朝比奈豊毎

日新聞社社長列席のもと、渡辺豊博GW三島事務局長と楊秉彝韓国ナショナルトラスト理事長それぞれに、賞状と賞金1万ドルが贈られた。

受賞に続いて訪れた済州島では、行政関係者と環境教育、平和教育、バイオトイレ等について、親しく懇談する機会をもつことができた。



## 平成22年度 GW三島通常総会開催



6月13日、西地区コミュニティ防災センターにて、平成22年度の通常総会が開催され、前年度の事業報告と本年度の事業計画等を審議し、承認を得た。特に内閣府からの新規事業(グラウンドワーク・インターンシップ)について、参加者の関心が高かった。その後、会場を移動して交流会が行われた。

## \* I期グラウンドワーク・インターンシップ開催

内閣府による「地域社会雇用創造事業」の一環としてのI期グラウンドワーク・インターンシップが、2010年8月~10月まで行われた。講義と実習からなる5日間の集合研修、地域のボランティア団体やNPOでのOJT研修では、地域活動や地域ビジネスを体験し、学びの集大成として、課題に基づく自己研鑽からなる、24日間の研修(合計29日間)が行われた。NPOと行政との連携の中で地域再生などに更に成果をあげていくことが、このプロジェクトの大きな役割になっている。



## \* II期グラウンドワーク・インターンシップの募集始まる

II期グラウンドワーク・インターンシップが、2011年2月~5月に行われるのに伴い募集開始。III期の日程も決定している。詳細はホームページで確認できる。募集人員はII期800名、III期1,200名。

II期集合研修日程  
 A : 2/7(月)~11(金)  
 B : 2/25(金)~3/1(火)  
 C : 3/4(金)~8(火)  
 D : 3/16(水)~20(日)

III期集合研修日程  
 A : 7/16(土)~20(水) D : 8/27(土)~31(水)  
 B : 8/1(月)~5(金) E : 9/3(土)~7(水)  
 C : 8/8(月)~12(金) F : 9/17(土)~21(水)

### 2010年8月2日~10月2日の

### I期グラウンドワーク・インターンシップ風景



実践地(シニア元気工房)



実践地(三島梅花藻の里)



ハンショウさんと乾杯!



OJT研修でガーデン作業ほか

## シマバイカモ 三島ブランド認定

GW三島が申請していた「三島梅花藻(シマバイカモ)」が、三島商工会議所の第II期三島ブランドに認定された。

9月22日には、須田徳男三島商工会議所会頭より小松幸子GW三島理事に認定証が授与され、GW三島が取得した「三島ブランド」は、「源兵衛川」に次いで2つ目となった。



## I期グラウンドワーク・インターンシップ

8月2日からスタートしたI期の集合研修プログラムの多彩な講師と、この事業を支えたボランティア



① ロビン・ヘンショウさん



② 小山 善彦さん



③ 岸本 幸子さん



④ 北岡 和義さん



⑤ 久住 剛さん



⑥ 千賀 裕一郎さん



⑦ 鷹野 秀征さん



⑧ 渡辺 豊博さん

- ① 「英国のGW運動・その歴史的な役割」講師：ロビン・ヘンショウ（英国のGWトラスト元所長、GW三島シニア・アドバイザー）
- ② 「英国が目指す新しい公共・社会的企業の成長」講師：小山善彦（バークリム大学客員講師、GW三島シニア・アドバイザー）
- ③ 「社会的課題（グループワーク）」講師：岸本幸子（NPO法人パブリックリソースセンター理事・事務局長）
- ④ 「ボランティア精神と起業意欲」講師：北岡和義（日本大学国際関係学部特認教授、GW三島理事）
- ⑤ 「社会的企業の役割とは」講師：久住 剛（パブリックリソースセンター代表理事）
- ⑥ 「地域を変える！地域を創る！」講師：千賀裕一郎（東京農工大学大学院教授、NPO法人日本GW連合代表）
- ⑦ 「社会的企業を立ち上げよう」講師：鷹野秀征（パブリックリソースセンター理事）
- ⑧ 「GW三島の多様な現場モデルのノウハウとは」講師：渡辺豊博（都留文科大学教授、GW三島理事・事務局長）

### \* この事業を支えたボランティア \*

秋山清子、明吉一美、池田正樹、伊藤大二郎、久我公雄、熊井陞、越沼正、小浜修一郎（遊水匠の会会員）、小松幸子、佐伯忠夫、佐藤三郎、佐藤晴代、島崎禮次、菅野京子、杉山光良、高橋健二（境川・清住緑地愛護会会員）、田村和幸、中口佳永子、仲田芳文、広川敏雄、三神正彦、宮澤達、森昭夫、山口東司ほか（敬称略・50音順）

## 第9回 鎮守の森探検隊

1) 7月11日「森と川・水源の森に生きる生物を見つけに行こう」

伊豆市・萬城の滝 参加60人

講師：加須屋真、杉本武、原茂光

森と川でたくさんの生物に出会えた。森は地球のスポンジ、雨をためて生物の生態系や人々の暮らしを守っていることに気付いた。



森には、どんな虫が潜んでいるか楽しみ！

2) 7月24日「調べてみよう！川の水質と川虫の関わり」

長泉町・窪の湧水 参加35人

講師：加須屋真、熊井陞

パックテストを使っての水質検査では、水温15℃、無色透明で綺麗な水を実感。生き物にとっては冷た過ぎ、餌になるプランクトンが少ないため、水中の生き物は意外と少ないことが分かった。

3) 7月31日「富士山麓に広がる豊かな森に潜む虫を探そう」

富士宮市・西臼塚 参加31人

講師：加須屋真、大場俊司

4) 8月7日「感じよう！森の役割・楽寿園丸ごと観察会」

三島市・楽寿園 参加30人

講師：加須屋真、池田二三高、杉本武  
涼しい森の中で、昆虫の専門家から詳しい説明が聞けた。ハチの先生は慣れた手つきでオオスズメバチを捕まえ、間近で見せてくれたりして、びっくりの連続だった。

5) 8月20日「探してみよう！川に潜む虫の世界」

三島市・源兵衛川 参加60人 講師：遠藤裕紀

川に入って網を片手に魚、ザリガニ、ヤゴ、などを捕まえた。1時間もすると水槽にはたくさんの生き物。説明を聞いた後、捕まえた魚や生き物を川に戻し、命の大切さも学んだ。

6) 9月11日「森と海は仲良し！魚つき林の観察会」

真鶴町・三ツ石海岸 参加50人

講師：加須屋真、杉山高史、原茂光  
樹齢200~400年といわれる巨木が茂る森を歩き、木のまわりや落ち葉の下の生き物を見つけた。魚つき林が海にもたらす影響の説明を聞き、生き物の世界はみんな繋がっていることを知った。

7) 10月17日「五感を使って自然と触れ合う！ネイチャーゲーム」

三島市・山田川 参加20人

講師：山口康裕、田所雅子  
昆虫になった気分で葉っぱをかじったり触ったり、音を聞き分けたり、ビンゴゲームをしながら五感をフル活用して自然を体感した。

8) 11月23日「きみも樹木博士になろう」

沼津市・香貫山 参加15人

講師：菅原久夫、鈴木正之  
9) 11月7日「発見！ジオパークの植生と太古の神秘」

伊東市・一碧湖 参加25人 講師：山口康裕  
紅葉が美しい湖畔を歩き、落ち葉や木の実を拾い、葉の香りや味を確かめ、リスにも出会った。11万年前



蝶はこう持つんだって！

の地層に触れ、火山が生み出した湖の歴史も学び、環境に対応する自然界の仕組みの巧みさに驚嘆した。

### 感想文

#### 中学生がGW三島で職業体験

11月4、5日に三島市立中郷中学校2年生2人、11月17、18日は三島市立山田中学校2年生3人が総合学習の一環としてGW三島のフィールドワークを体験した。

★三島梅花藻の里の清掃は、小さなミシマバイカモを守るために毎週大勢の人が頑張っているのを知りビックリした！水は思ったより冷たくなり、ミシマバイカモと水がきらきら光って嬉しい気持ちになった。

★大豆畑では、枝豆が大豆になるのを初めて知った！松毛川を元の川に戻そうと植樹をしているが、80年もかかると聞いて、自分がいない時代の人たちのためによくできると思った。源兵衛川に比べ、とても汚く、ゴミもたくさん落ちていた。少しでも川をきれいにしてほしいし、できることはやりたいと思った。

★三島街中カフェでの野菜販売では、GW三島の人が地域の人たちに気軽に話しかけ積極的に売っていた。自分たちは初めオドオドしていたが、次第に声が出てきて、売りながら会話ができるようになり楽しかった。



大豆畑で排水用の溝掘り作業



スタッフから野菜販売の説明を受ける中学生



三島市芝本町に在住 やまざき 山崎 よしこ 芳子さん

桜川（水上<sup>みなかみ</sup>）に近い私の家は、その豊富な水を利用して米の搗屋<sup>つきや</sup>をし、この辺りの精米は一手に引き受けていた。また、豊かな水は兵隊さんたちのお風呂にもなっていた。

その頃、今の北中、北高付近に軍の連隊があり、三島商工会議所辺りには憲兵隊があって、軍隊の兵士たちを常に監視していた。兵士たちでも悪いことをすると牢屋に入れられ、国家に反対するような発言があると国防婦人会が憲兵に言いつけたりし、子ども心にも「怖い」という印象があった。

戦後GHQが楽寿館に駐在していた時、彼らのピンとしたギャバジンの服装と日本兵のよれよれの綿の洋服との違いに驚いたのを覚えている。子ども心にもその頃

から洋服への関心があったのかもしれない。

戦争中だったので、集団登校中よく警戒警報や空襲警報が発令され身を隠した。学校の勉強は、意味も分からず強制的に覚えさせられ、授業で一番辛かったのは稲の害虫を取らされたことだった。

遊びといえば、夏は川で泳ぎ、お手玉、石蹴り、縄跳びなどで、とにかくよく遊んだ。一般的に、宮さんの川は深くて高学年向きで、桜川は低学年向きだった。富士山からの湧き水は1年中温度が低く、ちょっと入って甲羅干しをするといった具合だった。

その頃桜川の川幅は広く、対岸に行くのにボートを利用し、それを生業にしている人もいた。現在、生まれ育った桜川の畔に暮らせる幸せを感じている。



1 前列左は子ども時代の芳子さん、隣の2人は芳子さんの姉妹。右は、母方の伯母さんで、当時、三島第一文化服装学院院長をされていた。  
2 桜川で遊ぶ、昔の子どもたち 3 国防婦人会の消火訓練の様子  
4 昔、桜川に係留の舟  
5 桜川の畔には、昔、こんな光景が見られた。

## 6 回目の三島、初めての北海道

(寄稿) グラウンドワーク三島 シニア・アドバイザー ロビン・ヘンショウさん (英国在住)

### 三島



講義を聴く 200 余名



源兵衛川で感激



新事務所で



講義風景



打ち合わせを重ねて



足水



パイリンガル環境かるた



開所式で

ダイアナ妃に傘をかざす  
若き日のヘンショウさん

この夏、グラウンドワーク・インターンシップ (GWI) の、非営利部門での雇用対策に関する講義の講師に招かれたことを、大変誇りに思っております。A 日程に参加の 240 人に講義できたことは名誉であり、彼らの夢が実現することを願ってやみません。GWI の構想の大きさと重要性はGW三島への大きな評価であり、日本政府がGW三島を有意義で想像力に富んだNPOとして認識したことの証であり、私自身GW三島のシニア・アドバイザーであることを大変嬉しく思っております。

1993 年以来、私にとって 6 回目の三島訪問は、プログラムでの重要な役割を果たした後は、GW三島スタッフの親切な心遣いで、美しい富士山の見えるケーブルカー

に乗ったり、魅力的なMOA美術館に案内していただいたりして、三島周辺も満喫しました。

三島滞在中は毎日、源兵衛川を歩きましたが、夏の訪問は初めてで、その水量の豊かさや澄んだ水の中を多くの子供たちが楽しそうに歩いているのを見て、とても嬉しかったです。三島梅花藻の里を再度訪れ、その反対側にある隆泉苑の美しい日本庭園も初めて散策しました。

2007 年 2 月の三島訪問の際には、レールウェイ・パスを使って南九州に行き、長崎でバードウォッチングを楽しみました。その時、年 1 回の数千羽のツルの飛来に遭遇したのは全くの偶然ながら、まさに幸運なことでした。(※ヘンショウさんの趣味の 1 つは、バードウォッチングです。)

### 北海道



新幹線で、一路北海道へ!



稚内でのカーニバルの行列



礼文島のユニークな歓迎



花の遊歩道を満喫



後ろ髪を引かれる思いの礼文島

今回はできるだけ北へ列車で行きたいと思い、三島散策後は、新幹線で本州を北へ縦断し、夜遅く札幌に着きました。GW三島では親切にも私の宿泊施設の予約をしておいてくれました。それは札幌カプセルホテルで、私にとって興味深く楽しい経験となりました。

朝、西洋的なものと東洋的なものが見られる札幌植物園を散策し、そこから稚内港まで列車の長い旅に出ました。ガイドブックでは、稚内はつまらなくて訪れる価値がないように書いてありましたが、私が着いた時には何百人もの人がカーニバルのために集まっていて、若い人も若きも共に日本の伝統的な衣装を身につけ、ある者はモンスターやドラゴン、テレビのキャラクターたちの衣装などを身にまとっていました。カーニバルの行列が始まると、大声のスピーカーに合わせて街中を行進していました。土砂降りになりましたがその場は大いに盛り上がっていました。サッポロビールやうどんも美味しく、数人のロシア人水兵を除いて外国人は私 1 人でした。日本のユースホステルは、とても心地よく熟睡できました。

翌朝、フェリーで礼文島へ 2 時間の船出をしました。その島のユースホステルにも予約を入れておいてくれましたが、そこがユニークな所だというアドバイスもしてくれました。港に着くと確かにそのスタッフたちが旗を振り、フォークソングを繰り返し歌ってくれました。ユースホステルまでトラックで行きましたが、それは美

しい湾の険しい壁の麓にあり、日本海が見渡せました。やはり歌で迎えられました。海岸を散策すると、地元の人が海苔を採ったり、漁夫がご馳走のウニを採ったりしているのに出会いました。歌と踊りの夜を過ごし、翌日、南の岸壁の上にある花の遊歩道を散歩しました。

ホステル・スタッフの感動的な歌声を聞きながら、後ろ髪を引かれる思いでフェリーに乗り、礼文島を離れて列車の旅に戻りました。一両編成のディーゼルカーに 2 時間乗り、予約済みのホステルに近い駅に着きました。そこで降りるのは私だけで、人のいないプラットフォームは列車だけという感じでした。ユースホステルへの行き方は英語で“5 分歩く”と書いてあるだけで、方向の指示さえありませんでした。やがて到着したホステルにリュックサックを置いて、後ろの森の斜面の小道を散策しました。花の群生地には小川や池の上を舞うチョウやトンボが飛び交っていました。それがなぜか、とても日本的でした。ユースホステルは、ゲスト 15 人だけでしたが、雰囲気は心地良いもので、お風呂もあり、夕日を楽しみ、手作りの夕食も美味しく、夜の締めくくりには流れ星を見ました。最後の晩は、北海道で私が最も興味を持った札幌に泊まりました。そこから成田空港に戻り、日本の私の第 2 の思い出深い旅は終わりました。

これを最後の冒険というつもりですが、次の冒険ができればと願っています。

にしかわ かつみ  
西川 勝美さん

### 三嶋暦をパソコンで



沼津市金岡出身。35年前に現在の三島市萩に移る。化学関連企業の技術者だったが、現在はグラウンドワーク活動に関心が向けられている。GW三島との関わりは、平成12年「三島アメニティ大百科」の編集に携わって以来。得意のパソコン技術を生かし、三島街中カフェで「ワンコインパソコン講座」の講師でもある。GW三島の多面的活動に期待を寄せる一方、活動を支える“専門家”を増やす必要性を感じている。

昨年より三嶋暦の会会長。とりわけ陰暦への思いは一人（ひとしお）。グローバル文化交流協会事務局メンバーとしても広く活躍。

趣味はハイキングや山歩き。トレーニングを兼ねて自宅からはどこへでも歩く。好きなお酒の場面でも崩れたところを誰も見たことがないと言われ、常に笑顔を決やさない紳士である。

沼津出身の偉人・江原素六の「克己制欲（こっきせいよく）」（欲を制しておのれにかつ）を座右の銘としている。

やまもと いつこ  
山本 壹子さん

### 愛犬と四季をともに



京都で生まれ育つ。結婚を機に“富士山が見え、水がきれいな三島”に住むようになって40年余。南本町在住。近くにある中郷温水池を愛犬“まるん”と散歩するのを日課としている。

GW三島との関わりは、三島市三ツ谷の畑を借りて行われた「そば作りをするボランティア募集」の作業に応募して以来。三島梅花藻の里の作業に参加してからも7年経過する。毎週木曜日に行われている作業は、5人から10人ほどのボランティアが入れ替わる中で、山本さんは常時参加。今まで大変だと思ったことが一度もないという。「四季折々の変化があり、桜が楽しめるし、さわやかな気分になり、こちらを元気にしてくれる。それに愛犬とともに参加させてもらっていることにも感謝している」と言う。この間、GW三島のインストラクター養成講座も受講。

コーラスグループに所属し、水中ウォーキングなども行い、健康には気を使っている。

### パッション No.8

### 例大祭 守り受け継ぎ 世界へ飛躍

日本大学国際関係学部がある三島キャンパスに赴任して、11年が経った。その頃ちょうどGW三島は大きく成長しようとしていた時でもある。最初は1人で参加していたボランティア活動も、気がつくやうに学生たちとプランターの植栽や「遊水匠の会」の手伝いをするまでになった。平成11（1999）年、腰切不動尊の例大祭復活の願いにGW三島とともに学生が応え、現在に至っている。

学生たちは今、世界に飛び立ち、国際協力部の学生はタイの山岳民族支援に、金谷ゼミの学生はカンボジアの子ども支援に活躍中である。腰切不動尊の例大祭は今も、後輩に受け継がれている。



例大祭で餅つきを見守る学生

日本大学国際関係学部金谷ゼミ&国際協力部 金谷尚知（国際関係学部教授）

### 「三島街中カフェ」が1周年

白滝公園・めぐみの子の筋向いに、昨秋オープンした「三島街中カフェ」が、「オープン1周年記念イベント」を企画している。

街中のにぎわい発信・交流拠点として、三島の新鮮野菜や菓子類の販売、源兵衛川に生息する貴重な生物が観察できる水槽の設置、そば打ち教室、ワンコインで受講できる英会話講座やパソコン講座、健康ま〜じゃんサロンなど、多様な活動が行われている。来客数も増え、テレビ放映もあり、これからの役割が期待されている。

今後に向け、更なる野菜販路の拡大、ワンコイン講座の充実、作品展スペースの利用など、地域の人々に活用してもらうための企画を検討している。

#### 三島街中カフェ1周年記念イベント

日時：2010年12月12日(日)11:00~

場所：三島街中カフェ

内容：★「源兵衛川水族館」オープン（水槽2台設置）★「バイリンガル環境かるた」などのかるた遊び★缶バッジ作り★だごしやオープン★子ども向けワークショップ〜落ち葉のしおり作り〜 ★その他



「三島街中カフェ」オープンから1年間のアルバム・・・あれこれ・・・海外からの視察者も美味しいコーヒーやラムネで一休み



## 海外からの視察・交流：シリア、台湾、韓国



8月19日、台湾からの視察者は3グループになって水辺を中心に回る。GW三島の取り組みに感心し、豊富な清流の源兵衛川の散策路に歓声を上げながら、午前中の視察を予定通りの11時に終了。聞けば、2時過ぎには富士山静岡空港から台湾へ飛び立つとのことで、タイトな企画に驚嘆。三島梅花藻の里からバスで一路空港へ。

10月8日、シリアの農業灌漑用水の行政関係者が視察。源兵衛川では、清流に足を浸してくつろぐ場面もあった。GW三島の事務局や、三島街中カフェにも立ち寄り、活動への理解を深めた。



10月27日、「世界お茶まつり」の一環として川根本町で開催の交流会に、韓国全土からのお茶文化が専門の大学教授団（バス2台）とGW三島が参加。これは、I期GW Iの交流会に参加した韓国の大学教授の熱心な呼び掛けで実現。女性の多い理由を尋ねたら、「韓国では、女性はお茶、男性はお酒なのよ」と笑顔で解説。多くは日本語が堪能。

10月26日、日本での川サミットに参加した韓国の水原（スワン）市関係者が訪問。GW三島事務局で、質疑を重ねた後、夕暮れの水辺実践地を視察。雨が降り出したが、富士山が市内から見え、一同感激した。

### 松毛川千年の森トラスト運動

GW三島では、地元住民による「松毛三日月会」（会員120人）等と協働して、「松毛川千年の森トラスト運動」に取り組んでいる。すでに、地元住民や子どもたち、近隣自治会、行政、専門家との協働で、1,500本の植林、清掃活動、環境改善を行ってきた。今後も河畔林の再生・保全活動を続ける。

- 今後3年間で、2,000本（松毛川の潜在自然植生であるエノキ、ムクノキ、ケヤキなど15種類）の植林
- 定期的な清掃活動や維持管理活動
- 四季を通じての河畔林の自然観察会、ボートからの野鳥や樹木の観察等の環境プログラムを実施



11月20日、GW三島と協働して社会貢献活動を続けている「キャノンマーケティングジャパングループ」は、「松毛川千年の森トラスト運動」に参加した。

### 御園地区の援農活動

6月から援農活動として、三島市御園地区で大豆とミシマサイコの栽培を始めた。

6月14日、農業アドバイザー・杉山光良さんの指導のもと、草を刈り、土を掘り起こして肥料を施した。7月26日には大豆とミシマサイコの種を蒔いた。その後も草取りなどに汗をながし、秋には大豆を枝豆用に収穫した。

11月28日、グリーン・ジョブの研修生も小麦の種蒔きをした。



ミシマサイコの種蒔き

### グリーン・ジョブ（環境まちづくり）活動

三島市内や周辺地域の「山」「里」「街中」をフィールドに、環境保全を図り、多様な資源を活用し、地域を元気にする様々な活動を行っている。

募集中

#### 公園の手入れ

三島梅花藻の里（毎木曜日）  
鏡池ミニ公園（第1土曜日）



#### 農業・加工（月2回程度）

三島市三ツ谷、御園  
そば畑・小麦畑の農作業、  
そば打ち教室、パン作り等



#### 木・竹製品作り（週2回程度）

「悠遊工房ひろかわ」で間伐材や間伐青竹を活用した木製品・竹製品の作成



#### 放置竹林の再生（月2回程度）

三島市大場の放置竹林を間伐。

こどもの木工教室を「悠遊工房ひろかわ」で開催

### 腰切不動尊の屋根の改修

日本大学国際関係学部金谷ゼミ&国際協力部の学生と地域が、GW三島と協働で、祭りを復活し守ってきた腰切不動尊。最近、屋根に雨漏りが見つかり、銅葺き瓦屋根への葺き替えが必要となった。改修には、50万円ほどかかるため、広く浄財の寄進を仰ぐことになった。寄進額は1口1,000円から（銀行振り込み、または持参）。寄進者の名前を瓦に記入して屋根に設置する。

2011年1月28日の「例祭」までに完成をめざす。

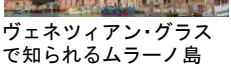
## ヴェネツィアの「隔離」戦略



ヴェネツィアは、島々への隔離戦略を進めた

ヴェネツィアは、島々への隔離戦略を進めた。建物は連棟式で、又、複雑に入り組んでおり、建物には「煙突」となりそうな空間がたくさんできているからだという。

さらに、消防活動をするのもすべてボートだし、迷路のような小運河が多く、それに、満潮でぐれない橋や、干潮で通れない個所があるなど、消火活動の大きな障害となっていることもわかる。



ヴェネツィアン・グラスで知られるムラーノ島

実際、過去には街を焼き尽くす大火も多く、最近でも1996年に、イタリアでも四大オペラホールとして著名な、オペラの殿堂フェニーチェ劇場が焼失し、再建まで7年を要したとされているし、ぐっと遡る1291年には、火災発生を恐れて、現在のヴェネツィアンガラスにつながるガラス制作工房を、本島から数キロはなれたムラーノ島へ、強制移住させている。

こうしたヴェネツィア周辺の島々を隔離場所として利

火事は、「水上都市」であるヴェネツィアにとって、歴史的に「水」よりも恐ろしいとされてきた。

というも、ヴェネツィアの家屋は、ほとんどが



用する考えは、当時から行われていたらしく、1347年から全欧を恐怖に陥れ、ヴェネツィアだけでも十万人が亡くなったとされるペスト禍に際しては、ユダヤ人が原因だとその迫害を強め、1516年にはユダヤ人全員をジューデッカ島に移住させ、その名残か？、現在の女性専用刑務所はそちらに置かれている。

又、1630年の再度のペスト禍の後には、サン・ミケーレ島をヴェネツィアの共同墓地に定め、現在に至っている。



サン・ミケーレ島にはペストの蔓延を恐れて墓地が集められた

内・外部からのこうしたしっかりした防疫体制は、そもそもヴェネツィアが、世界の貿易港として、いわば地の果て？からの「異国人」の出入りが多く、彼らの持ち込む疫病を極端に恐れていたため、古くから発病船員のいる船は、40日間港の外に停泊させ、その間は誰も上陸させない方策を取ったことにも現れている。

現在、国際空港の「入国管理」のすぐ手前に、必ず「QUARANTINE (検疫)」というセクションがあるが、これは元々イタリア語で、「40日間」を意味している。



ガラス工場の見学もできる(ムラーノ島)

人の出入りが多くなればなるほど、「エイズだ」「西ナイル熱だ」「O-157だ」「鳥インフルエンザだ」と、こうした防疫体制が問われるのは、大国・ヴェネツィア共和国の昔も、今も、変わらない。

## 過ぎゆく三島 いつまでも その5

### 三島に残る松尾芭蕉の三名句

松尾芭蕉（寛永21年～元禄7年、1644～1694）江戸時代前期の俳人。三重県伊賀市上野に生まれ、29歳で江戸に出る。38歳の時、門人が庭に芭蕉の木を植えたことから自分の住まいを「芭蕉庵」と名づけ、自らも「芭蕉」と称するようになる。41歳からは旅に過ごし、「旅の詩人」または、「漂泊の詩人」ともいわれ、その旅から多くの名句、日記、紀行文を残す。

#### 霧しぐれ 富士を見ぬ日ぞ 面白き

箱根西坂・三島市笹原新田の北、富士見平の駐車場に巨大な句碑として昭和53年10月に建てられ、揮毫は明治神宮宮司伊達巽氏による。「期待していた富士の眺めも、きょうは霧に隠れて見えないが、霧の彼方に富士の麗姿を想うのもまた、一興である」というこの句は、41歳の貞享元年（1684）、『野ざらし紀行』の中で詠まれた。



#### どむみりと あふちや雨の 花曇

三嶋大社境内の一隅に、趣ある風情の句碑がある。どんより曇った雨空のもと、その雨に打たれても健気に咲くセンダン（あふち）の薄紫色の花と、江戸に残してきた病床に臥す妻とを重ね合わせ、元禄7年（1694）に詠まれた。芭蕉は妻の訃報を旅の途で知らされ、帰郷し追悼。やがて郷里伊賀上野から奈良に出立し、旅先にて彼もまた51歳で没す。



#### いざともに 穂麦くらはん 草枕

三島広小路の蓮馨寺には山門を入るとすぐ右に芭蕉の墓がある。これは、住職が芭蕉の弟子だったという縁で建てられた。墓石の左側面には、この句が刻まれている。

「沢地グローバルガーデンの草花・生き物ミニ図鑑」



I期GW IのOJT研修の実施団体の1つであるグローバル文化交流協会が、OJT研修に参加の皆さんと数カ月かけてミニ図鑑を完成させました。A4版表裏カラー印刷2ページ。OJT研修の成果品であるミニ図鑑をご希望の方は、下記にお申し込みください。お名前を書いて、GW三島事務局へ預けておきますので、受け取ってください。数に限りがありますので、お1人1枚でお願いします。

小松幸子 055-986-1524 TEL/FAX  
水野幾子 055-986-4925 TEL/FAX  
斎藤彩子 055-988-1633 TEL/FAX

三島市内の写真集

過ぎゆく三島を未来に残すために、あなたが撮った三島市内の風景や風物写真を随時募集しています。GW三島の印刷物に使わせていただくこともあります。(今回の投稿者は何れも三島市在住)

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日、一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。Eメール: info@gwmishima.jp



『カラフルな県営住宅の上に虹』H22. 夏 城所但帝さんが吉町田で撮影



『オンパッタの夫婦物語』H22. 秋 村澤圭さんが沢地で撮影



『イギリス庭園風なガーデン』H22. 初夏 前田充子さんが沢地で撮影

GW三島活動記録 2010年6月1日~2010年11月30日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数	
6	3	木	そよげ学習	東小3年生 ホタルの学習	東小	60	
6	10	木	ほたる祭り準備(6/12)	会場設営、進行補助	楽寿園	9	
6	12	土	松毛川 GP レンジャー キヤノン MJ 協働事業	緑と水の森林基金 清掃&植林 湧水ツアー	松毛川 源兵衛川・楽寿園	26	
6	13	日	平成22年度通常総会、交流会	評議員会、理事会、総会	西防災センター	116	
6	14	月	インストラクター研修	富士山の湧水が育むバйкаモ見学	富士宮市、富士市	10	
6	18	金	そよげ学習	北小4年生 源兵衛川校外学習	源兵衛川	122	
6	20	日	インストラクター研修	ホトケドジョウ保護活動視察	山梨県忍野村	6	
6	21	月	援農活動	ミシマサイコ栽培について見学	三島市内	5	
6	22	火	援農活動	馬鈴薯、ラディッシュ、インゲン収穫	三島市三ツ谷	9	
6	22	火	そよげ学習	西小 源兵衛川校外学習	源兵衛川	55	
6	23	水	チャリティーコンサート	松毛川千年の森トラスト運動に寄付	みしまプラザホテル	140	
6	23	水	松毛川 GP レンジャー	座学松毛川	三島南高校	30	
6	24	木	援農活動(7/4,5)	大豆栽培(草刈り、施肥、耕うん)	三島市内	4	
6	29	火	そよげ学習	東小3年生 昆虫の生態について	東小	60	
7	2	金	そよげ学習	南小3年生 源兵衛川校外学習	源兵衛川第7ゾーン	84	
7	4	日	雷井戸ワンデイチャレンジ	井戸蓋の取替え、ポンプ設置	雷井戸	15	
7	7	水	そよげ学習	錦田小4年生 源兵衛川校外学習	源兵衛川	130	
7	9	金	そよげ学習	北上小4年生 源兵衛川校外学習	源兵衛川	68	
7	10	土	援農活動	馬鈴薯収穫	三島市三ツ谷	40	
7	11	日	鎮守の森探検隊①	森と川の生物を見つけよう!	伊豆市萬城の滝	60	
7	18	日	源兵衛川生物多様性保全	第1回専門委員会	三島市民活動センター	12	
7	22	木	そよげ学習	徳倉小4年生 源兵衛川校外学習	源兵衛川	70	
7	24	土	鎮守の森探検隊②	川の水質と川虫の関わり	長泉町窪の湧水	35	
7	26	月	援農活動(8/23,28)	大豆栽培(種まき、農機具整備)	三島市御園	34	
7	31	土	鎮守の森探検隊③	富士山麓の森に潜む虫	富士宮市西臼塚	31	
8	1	日	源兵衛川生物多様性保全	第3ゾーン遊歩道整備・実証実験	三島市広小路町	25	
8	2	月	I期GW(10/2)	GW集島研修、補講、OJT研修	日本大学、各地	443	
8	3	火	松毛川 GP レンジャー(8/10)	植林と野鳥観察会	松毛川	140	
8	7	土	鎮守の森探検隊④	森の役割・楽寿園丸ごと観察会	楽寿園	25	
8	20	金	鎮守の森探検隊⑤	森の昆虫薬校	クワガタ・カブトの昆虫教室	三島市民活動センター	15
8	21	土	援農活動(9/27,11/6)	三島そば準備、種まき、溝掘、収穫	三島市三ツ谷	63	
8	22	日	三島南高校ビオトープ	ビオトープ周辺の整備、清掃、観察会	三島南高校	7	
8	26	木	源兵衛川水辺自然観察会	昆虫、野鳥、水生生物	三石神社集合	50	
8	26	木	松毛川 GP レンジャー	ボートからの河畔生の観察	松毛川	10	
8	29	日	森の昆虫薬校、だがしや薬校	手桶・ひしゃくづくりと打ち水体験	三島市内、三嶋大社	50	
9	11	土	鎮守の森探検隊⑥	源兵衛川・三島梅花藻の里担当	源兵衛川	16	
9	22	水	鎮守の森探検隊⑦	魚つき林の観察会	真鶴町三ツ石海岸	50	
9	26	日	三島ブランド認定	認定証交付式(三島梅花藻)	三島商工会議所	2	
9	26	日	森の昆虫薬校(10/3)	昆虫の標本箱づくり①②	シニア工房	26	
9	28	火	腰切不動尊	腰切不動尊例祭	腰切不動尊	9	
10	12	火	環境出前講座	松毛川観察会(長伏小1・2年生)	松毛川	120	
10	17	日	鎮守の森探検隊⑦	五感を使って自然と触れ合おう!	山田川	20	
10	27	水	お茶フォーラム	韓国からのゲストと交流・歓迎	川根本町	70	
10	28	木	日韓国際環境賞同時受賞(~31)	表彰式出席、済州島研修	韓国	5	
11	4	木	職業体験学習(~5)	中郷2年生	三島市内	2	
11	7	日	鎮守の森探検隊⑨	ジオパークの植生と太古の神秘	伊東市一碧湖	25	
11	13	土	グリーン・ジョブ研修①(~14)	三島そば分別、放置竹林の間伐	三島市三ツ谷、大場	19	
11	16	火	地球環境基金	源兵衛川魚類調査	源兵衛川	8	
11	17	水	職業体験学習(~18)	山田2年生	三島市内	3	
11	19	金	環境出前講座	源兵衛川再生物語	山田中	96	
11	20	土	CSR	松毛川植林活動(キヤノン MJ 社員)	松毛川	14	
11	20	土	日韓国際環境賞受賞記念事業	受賞記念シンポジウム	静岡市	20	
11	23	火	鎮守の森探検隊⑧	君も樹木博士になろう!	沼津市香貫山	15	
11	27	土	グリーン・ジョブ研修②(~28)	放置竹林の間伐、小麦の種まき	三島市御園	21	



『満水間近の小浜池』

GW三島事務局の新スタッフとインターン生



大川保



蒲生誠



菊池智春



栗原史紗



堀口恭代



前川卓三



渡辺智子

I期GWインキュベーション 17人に起業支援金

GW三島は、11月15日に内閣府の地域社会雇用創造事業で、今年度から始めたインキュベーション(起業支援)事業の第1回目として、北海道から奄美大島までの、職業、経歴もさまざまな122人の応募者の中から17人に平均100万円を支給することを決めた。地域を活性化する、新しい公共の担い手として、課題に取り組みビジネスの芽を出してほしい。



- 〈定例作業〉三島梅花藻の里 25回 鏡池ミニ公園 6回 源兵衛川 5回 沢地グローバルガーデン 5回 境川・清住緑地愛護会 3回  
〈定例会〉インストラクター会議 6回 スタッフ会議 7回 地域社会雇用創造事業14回 三島街中カフェ 15回

視察来訪者記録 H22.6.1~H22.11.30

月	日	団体名	人数	地域	月	日	団体名	人数	地域	月	日	団体名	人数	地域
6	5	BBS	24	静岡	8	28	瀬戸谷生き生きフォーラム	20	神奈川	10	14	木曾町環境協議会	30	長野
6	12	キヤノンマーケティングジャパン	27	各地	9	4	関東地方BBS学生交流研修会	60	各地	10	22	千葉県市川市環境課水質保存室	7	韓国
6	16	長野県松代信毎会	8	長野	9	10	東京財団週末学校	2	各地	10	24	NPO法人富士おしの名水倶楽部	10	山梨
6	29	佐賀市役所 地域コミュニティ室	2	佐賀	9	13	明治大学塚本ゼミ、駒澤大学松本ゼミ	52	東京	10	26	武蔵野市コミュニティ研究連絡会	90	東京
7	3	NPO法人さがみはら市民会議(7/4)	18	神奈川			東端農用地利用改善・環境保全会	25	愛知	10	31	浜北青年会議所	30	静岡
8	9	京都府立大学、京都府職員(8/10)	13	京都	9	25	バイオフィット研究会豊田支部	16	愛知	11	9	岩城農業農村整備事業推進協	6	長崎
8	19	中華民国社区营造学会	33	台湾	9	26	豊田合株式会社労働組合	7	愛知	11	10	長秋南部土地区画整理組合	60	愛知
8	28	本郷ふるさと講演の会	20	静岡	10	8	JICA シリア国視察研修	8	シリア	11	17	東松山市高坂地区区長会	30	埼玉

グラウンドワーク三島 編集室

ボランティアニュース 42号の編集会議 10回ほか

岸野和子 城所但帝 小松幸子 斎藤彩子 菅野京子 本田博子 前田充子 水野幾子 村澤圭 山崎多紀子 (50音順) 事務局担当: 山田昭子